

11月給与総額 2.2%減

賞与カット響き下げ幅拡大

厚生労働省が7日発表した2020年11月の毎月勤労統計調査(速報値)によると、現金給与総額は前年同月比2.2%減の27万9095円でした。

8カ月連続の低下で、下げ幅は緊急事態宣言

厚労省は今後の給与動向について「12月も賞与(減少)の影響を大きく受けそうだ」と警戒感を示しました。

で、19年2月以来1年9カ月ぶりの落ち込みでした。基本給が中心となる所定内給与は0.1%増。景気の持ち直しにより、正社員などの一般労働者で増加に転じました。時

間外手当を含む所定外給与は、残業の縮小が続き10.3%減でした。

現金給与総額から物価変動の影響を差し引いた実質賃金は1.1%減にとどまりました。

月間労働時間は2.5%減の1388.4時間。平日が少なかったこともあり、前月の0.3%増から再びマイナスとなりました。産業別にみると、9.1%減だった飲食サービス業の回復の鈍さが目立ちました。